

◇令和7年／2025年1月号 第110号◇

會



フジサンケイグループ

報

産経国際書会

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



高橋照弘理事長 揮毫

今年へび年ということで思い出したのが、アクションスター、ジャッキー・チェンさんの主演映画で最初のヒット作「蛇拳」(1978年、香港)です。蛇の動きを真似た独特なカンフーで敵を成敗する痛快な作品。主人公はどうしても勝てない敵と遭遇しますが、猫と蛇の喧嘩にヒントを得て、猫の動きを取り入れた「猫爪拳」を開発。見事に敵を打ち碎きます。本作はイノベーションがいかにして生まれるかを物語るもので、実に示唆に富みます。皆さんはどんなインスピレーションを得て、作品作りに生かし、さらなる高みを目指すのでしょうか。期待に胸がふくらみます。



産経新聞社
事業本部長
三笠 博志

未来は原点にある

新年あけましておめでとうございます。

年が改まるのに合わせ、産経国際書会の過去の会報を引っ張り出してみました。少し格好を付けると、書会の未来に向けて、故きを温ねて新しきを知ろうとしたのですが、第1号（昭和59年12月）を読んだだけで、熱気あふれる内容に圧倒されました。

発足したばかりの書会への意気込みを当時の常任理事の先生方が綴っているのですが、紙面から湯気が立ち上がってくるようです。「既成団体の後塵を甘んじて受ける積りは更々無い（中略）書芸術を通じて国際友好を果たすという命題を背負って立った」（山田松鶴氏）、「新人だろうと、アマチュアであろうとそんなことは関係ない、作品本位で行くことである」（小川瓦木氏）

未来は原点にある一。40年あまり後の私たちにそう訴えているように思えたのですが、いかがでしょうか。奇しくも今年は、書会の原点の一つである「国際友好」の絶好の機会となる大阪・関西万博（4月～10月）があり、その会場では6月に産経国際書展の特別展を開きます。8月以降の第42回産経国際書展の本展や地方展も、国内にあふれるはずの外国人に産経の書に触れてもらえる大きなチャンスではないでしょうか。

会報第1号には「世界一の書展に」との言葉もみられます。産経新聞社は今年も皆様と手を携え、高みを目指していきます。引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。



産経国際書会
理事長
高橋 照弘

書会の力を海外に示せ

年があらたまり、爽やかな陽光を迎えました。会員の皆様には、更なる目標を立てられ、更なる前進を！と決意されたことと思います。

令和7年の干支は乙巳（きのと・み）です。乙は、日を10日のまとまりで数えるための呼び名「十干」（じっかん）の一つで、2番目。巳は十二支の6番目。「巳は蛇の象形なり」と、最古の漢字辞典「説文解字」（後漢の許慎著）にあり、蛇の長い体がうねうねとして、寛（ゆる）やかに大地を進む姿を思い浮かべることができそうです。私たちも悠として書会を着実に前進させて参りましょう。

令和6年度の書会行事は、「大作展」（4月、東京・上野の森美術館）を皮切りに、本展、本展の特別企画「呉昌碩展」、地方展は好評で、盛会裏に終えることができました。ひとえに会員皆様の強力なご支援、ご尽力に感謝し、御礼申し上げます。残すは1月下旬の新春展（東京・国立新美術館）となります。

令和7年度は「大阪・関西万博」記念展を開催します。万博には国内はもとより多くの訪日客が見込まれています。黒と白という究極の色が無限に展開する日本の書の美を表現し、産経国際書会の力を海外に示す千載一遇の好機であります。張り切っていきましょう。また、是非会場へも足をお運びください。本年も引き続き書会の運営にご協力くださいますようお願い致します。

目標はより高く

最高顧問 齋藤香坡



無法化した世界のはざままで迎える新年は痛々しいが、本年もよろしくお願ひ申し上げます。今年の子会行事も大変ですが、只今高齢化をどう乗り越え、会員維持を保つか、まず身近な問題から、子会顧問会員の重視を考へることも必要でしょう。難問は一つ一つ解決すれば、やがて大きな力となります。

話は変わって、いくつかの会員展を拝見し、

その充実ぶりは他社に劣らぬ作品内容でした。前衛作も大きく飛躍し、子会にとりましては誠に大きな収穫でしょう。子会は元気が一番。やればできる。プロ野球・横浜DeNAベイスターズを手本に、気力、行動、団結が伴えば恐いものはない。作品向上にゴー！

梅に学ぶ高雅さ

最高顧問 山下海堂



昨今の世相は力による対立が蔓延(はびこ)るのが目に余る。小さくともいい、目立たなくてもいい。寒さにめげず清く咲く梅のごとくありたい。

楚々たる花ではあるが、その香りは暗夜にも馥郁(ふくいく)と薫っている。万花に先駆

けてこの花は、形小さく、鮮やかな色もない。でもその高雅さはどの花よりも高く、その気品はいずれの花よりも勝っている。新芽吹くときのあの逞しさ、若葉の頃のあの明るい緑、真夏の日に輝く力強い茂みに目を向けてみよう。

今後の展覧会などスケジュール

※変更する場合があります。

第41回新春展	令和7年1月22日(水)～2月3日(月)国立新美術館 1月28日(火)は休館 贈賞式 1月31日(月)明治記念館 16:00～
総会	令和7年4月17日(木)大手町サンケイプラザ 14:00～
第42回本展締切	令和7年5月7日(水)
第42回産経国際書展審査会	令和7年5月27日(火)～5月30日(金) 東京都立産業貿易センター台東館
2025ジュニア展締切	令和7年6月10日(火)
2025ジュニア展審査会	令和7年6月23日(月)東京都美術館(予定) ※24、25日は、審査後作品整理
産経国際書展「大阪・関西万博」展	令和7年6月14日(土)～6月19日(木)10:00～18:00 大阪・関西万博会場内 ギャラリーEAST
第42回展 2025ジュニア展	令和7年8月14日(木)～8月21日(木)東京都美術館 9:30～17:30 8月18日(月)は休館。14日は13:00から、21日は13:00まで。
2025ジュニア展贈賞式	令和7年8月16日(土)東京都美術館講堂(予定)
第42回産経国際書展贈賞式	令和7年8月19日(火)明治記念館(予定)
第42回関西展	令和7年9月2日(火)～9月7日(日)大阪市立美術館 贈賞式 9月7日(日)都シティ大阪天王寺 12:30～
第42回東北展	令和7年9月12日(金)～9月17日(水)せんだいメディアテーク 贈賞式 9月15日(月・祝)ホテルメトロポリタン仙台 15:00～
第42回瀬戸内展	令和7年9月23日(火)～9月28日(日)広島県立美術館 贈賞式 9月27日(土)ホテル広島ガーデンパレス 14:00～
第42回中部展	令和7年11月11日(火)～11月16日(日)名古屋電気文化会館 贈賞式 11月16日(日)名古屋ガーデンパレス 12:00～
理事会	令和7年12月4日(木)大手町サンケイプラザ 14:00～(予定)

関西展

関西展実行委員長
松井 玲月

会期●令和6年9月4日(水)～9月8日(日) 会場●京都市京セラ美術館

ゆったり展示が好評

第41回展の地方展のスタートである関西展は、残暑厳しい9月4日から9月8日まで、京都市京セラ美術館において開催されました。来場者数はいかがかと心配しましたが、週末には親子連れ、また、外国の方も多数訪れ、1800人ほどを数えました。今回は出品数も増えましたが、会場を全館使用できて、ゆったり

とした空間での展示がよかったと好評で、うれしいことでした。

9月8日のリーガロイヤルホテル京都での贈賞式並びに祝賀会は、コロナ禍も落ち着きを見せ、以前のような形で開催。150人の出席があり、受賞者は70人ほど参加。小野亭良先生が韓国文化院長賞を受賞。喜びの言葉を述べられ、祝賀会へ。久しぶりに皆様の笑顔で盛り上がりました。

結びにあたり、ご多用の中、お暑い中、ご出席下さいました五嶋清・産経新聞社大阪代表、原田圭泉・産経国際書会名誉顧問、高橋照弘・同理事長をはじめ、関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

そして実行委員の先生方のご協力により、無事閉会できましたことに感謝申し上げます。



力作を鑑賞する来場者



「韓国文化院長賞」受賞スピーチに臨む小野亭良さん



祝賀会は和やかムード



賑わう会場



講演に臨む松崎龍翠さん

東北展

東北展実行委員長
松崎龍翠

会期●令和6年9月13日(金)～9月18日(水) 会場●せんだいメディアテーク

地元受賞作に高い関心

東北展では、東北地方在住の出品者による作品、高円宮賞、内閣総理大臣賞をはじめ、特別賞、書会幹部の作品など、計213点が展示されました。

地元の最高賞「伊達政宗賞」に輝いた酒井雅代さんなど、地元受賞者の作品は来場者の関心が高く、多くの方々の参観をいただき、盛会裏に終えることができました。

私事で恐縮ですが、内閣総理大臣賞の栄に浴したこともあり、地元町長をはじめ、東北電力の参事・役員の皆様など、多くの友人、知人にご来観をいただきました。感謝、感謝・・・の日々でした。ギャラリートークにも多くの参加者を得て、好評のうちに終えることができました。

今展も「2024産経ジュニア書道コンクール」の出品作130点が展示され、出品者と家族のご来場で賑わう様子も定着した感がありました。

贈賞式では、ご来賓の伊達家18代ご当主、伊達泰宗さんをはじめ、三笠博志・産経新聞社事業本部長、伊藤富博・産経国際書会会長代行、高橋照弘・同理事長のご挨拶をいただきました。式の後、私は「書道と私」のお話をさせていただき、祝賀会では、山下海堂・同最高顧問の

乾杯の音頭で和やかに楽しい一時を過ごすことができました。

関係の皆様へ深甚なる謝意を表し、ご挨拶とさせていただきます。



熱気に包まれたギャラリートーク



伊達泰宗さん(左)から酒井雅代さんに伊達政宗賞が贈られた

瀬戸内展

瀬戸内展実行委員長
大庭 清峰

会期●令和6年9月24日(火)～9月29日(日) 会場●広島県立美術館

バランス良い展示に来場者満足

第41回産経国際書展瀬戸内展は、例年通り広島県立美術館地下ギャラリーにおいて9月24日から29日まで開催致しました。瀬戸内展は、漢字、仮名、現代書の案分がよいと評されます。今年もバランスの良い展示に、来場された皆さんも楽しく観覧されたのではないかと思います。

特別賞受賞者によるギャラリートークでは、作品の説明や完成に至るまでの軌跡、使用した道具の話などに、大勢の参加者が聞き入

っておられました。

贈賞式では、三笠博志・産経新聞社事業本部長、高橋照弘・産経国際書会理事長からご挨拶を、また祝賀会では広島市議会議員の定野和広様からご祝辞をいただきました。今年も例年にも増して多くの受賞者が出席し、盛会となりました。

祝賀会では、社中の枠を超えての交流があったとの話も聞きました。出席された皆さんは、有意義な時間を過ごされたのではないで

しょうか。和やかな会は上村陽香・瀬戸内展副実行委員長の閉会の辞で、盛会のうちに終了しました。

遠方よりご出席された書会の先生方、来賓の皆様をはじめ、瀬戸内展にご尽力いただいた皆様に改めて厚く御礼を申し上げます。



祝意あふれる贈賞式



熱心に鑑賞する来場者



盛会を喜ぶ祝賀会

中部展

中部展副実行委員長
勝田 晃拓

会期●令和6年11月6日(水)～11月10日(日) 会場●愛知県美術館ギャラリー

その栄誉を称え・・・次回に繋げる名古屋の秋

例年なら気温が低く、墨彩鮮やかな会場の作品群と競うほど、紅葉真っ只中の開幕となるところだが、会期中は連日、外も内も熱気に包まれ、別の意味で「高揚」の展覧会となった。

最終日は大勢の来賓、受賞者が集い、贈賞式では心地よい授与の声が厳粛な会場に響いた。続く祝賀会は、産経新聞社各位、大村秀章愛知県知事の祝辞、乾杯、祝宴・・・と、優雅で至福の時間が流れた。

愛知県美術館は、さすが書道の栄える地に

あるだけに、訪れる観覧者の眼差しは常に鋭く、批評も手厳しい。が、今年も中部勢はそのプレッシャーに十分耐え得る実力ぶりを発揮した。

また、本展で好評だった呉昌碩特別展示(一部)の凱旋もあり、一際来場者の心を感銘の涙で潤わせたことだろう。尾張名古屋はトリで持つ・・・まさに地方展の締めに対応しい41回展になったに違いない。



国際大賞を贈られた三浦希韶さん(右)



愛知県の大村秀章知事も鑑賞



力作がずらり

第42回 産経国際書展 募集要項

1. 複数出品の料金は1点3,000円です。
2. 第2分野の料金は10,000円です。
3. 外国人出品者は軸装での展示を認めます。
4. 2025ジュニア展高校生A部門出品者は、U23部門の出品料を1点無料とします。

【出品資格】 18歳以上ならどなたでも、但しU23は高校生以上23歳まで
(2025年4月1日現在)

【作品部門】 (各部門とも未発表作品に限ります)

- 漢字部門：A 20字以内 B 21～200字以内 C 201字以上
- かな部門
- 現代書部門：A 少字数書(4字以内) B 近代詩文書(漢字かな交じり文)
C 墨象 D 刻書
- 臨書部門：A 漢字 B かな ※出典は自由
- 篆刻・刻字部門：A 篆刻 B 刻字 ※この部門は第1分野です
- U23部門：年齢制限(高校生～23歳)のみ、すべてのジャンルの書作品を同じ土俵で審査します。

【作品寸法】 (仕上がり寸法を基準とする)

第1分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法=基準寸法
A	240cm×60cm	8尺×2尺(242cm×61cm)縦のみ
B	180cm×60cm	6尺×2尺(182cm×61cm)縦横自由
C	135cm×105cm	4.5尺×3.5尺(136cm×106cm)縦横自由
D	135cm×70cm	5.8尺×2.8尺(176cm×85cm)縦横自由
E	180cm×90cm	6尺×3尺(182cm×91cm)縦横自由
F	120cm×120cm	4尺×4尺(121cm×121cm)

※紙寸法聯落以上の作品であること(但し一つの詩・詞で半切2枚の貼り込みは可)。

※篆刻・刻字・刻書は規定以内であれば自由。

※「かな」の小作品でも、上記規定寸法A、B、C、D、E、Fに貼り込めば第1分野と認めます。

第2分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法
G	135cm×35cm	小画箋2分の1・縦横自由
H	70cm×68cm	小画箋2分の1・方形のみ

※半切は種類により寸法に多少違いがありますが、1～2cmの誤差は認めます。

※「かな」の小作品は、上記規定寸法G、H以外でも第2分野として認めますが、極端に小さい作品は不可。

【出品料】 一般部門 第1分野(税込み)=1点13,000円、第2分野(税込み)=1点10,000円
※日本国籍以外の方1点=8,000円
U23(高校生以上23歳まで)部門=1点5,000円、但し「2025産経ジュニア書道
コンクール」高校生A部門出品者はU23部門
の出品料(1点)を無料とする。

※分野にかかわらず複数出品の場合(2点目以降)1点3,000円

【賞】 高円宮賞、内閣総理大臣賞、産経国際書会会長賞など特別賞と特選、秀作、
入選など。

【応募締切】 2025年5月7日(水) 午後3時までに指定表具店に搬入をお願いします。

【発表】 2025年8月中旬 産経新聞紙上にて。

【贈賞式】 2025年8月19日(火)

【展覧会】 会 場:東京都美術館 東京都台東区上野公園8-36

会 期:2025年8月14日(木)～8月21日(木) 18日(月)休館

開館時間:午前9時半～午後5時半 入場は5時まで

初日は午後1時から、最終日は午後1時まで

入 場 料:500円(心身に障害のある人と付き添いの方2人、65才以上、および
学生は無料)

展示作品:秀作以上の入賞作品、地方展(東北、瀬戸内、中部、関西)展示エリア
以外の会友作品と入選作品

【指定表具店】 (株)清蘭堂 TEL0268(22)2471、(株)佐久間太熙堂 TEL03(3844)1353、
(株)湯山春峰堂 TEL03(3451)6002、(株)祥雲堂 TEL03(6808)1595、
藤和額装(株) TEL045(833)5273、東洋額装(株) TEL03(6807)6455、
(有)齋藤鳳扇堂 TEL0474(84)6684、キョー和美術部 TEL043(298)5351、
書道表装ふじい TEL090(8642)1917

問い合わせ 詳細な募集要項と出品票は産経国際書会までご請求下さい。

第42回 産経国際書展 審査員(予定)

特別選考委員/石川天瓦、今口鷺外、風岡五城、笠嶋忠幸、齋藤香坡、武富明子、竹澤玉鈴、田村政晴、
手島泰六、鍋島稲子、原田圭泉、松崎龍翠、村越龍川、山下海堂、劉作勝、渡邊麗

漢 字/新井瑞鳳、泉芳秋、磯邊哲舟、伊藤秀泉、大庭清峰、河島彩澄、坂本香心、鈴木曉昇、
関根史山、高木撫松、只野翠苑、長尾佳風、平岡雄峰、柳鵬翔、山本晴城

か な/浅香秀子、伊藤春魁、齊藤春欣、鈴木蒼、谷蒼涯、中村雪鷺

現 代 書/植木由樹子、大久恵華、河口美櫻、加柴律子、倉島美瑤、五月女紫映、正川子葉、
町田武山、松井玲月、山田秀園、渡部美恵子、渡邊麻衣子

篆 刻・刻 字/晋鷗、高橋照弘、町山一祥

臨 書/青木錦舟、岩浅写心、金丸鬼山、高頭子翠、林龍成

U 23/鎌田悠紀子、五戸光岳、眞田朱燕、建部恭子、三宅秀紅

特別選考予備審査/今口鷺外、風岡五城、田村政晴、原田圭泉、町山一祥、渡邊麗

第 42 回 産経国際書展実行委員会

※任期は令和7年4月1日～令和8年3月31日

- 【実行委員長】 金丸鬼山
- 【審査部】 本部長 勝田晃拓
- 漢字部 部長 吉野富龍 副部長 本橋春景
委員 石川晴空、恩田瑞貞、十亀紫風、東浦曉舜、横溝景陽、和田玲砂
- かな、篆刻・刻字、臨書部 部長 諸留大穹
委員 進藤栄峰、高野彩雲、松岡篁月、宮川彪子
- 現代書部 部長 西川万里
委員 栗原蓮翠、外山錦紅、鶴淵雅泉、山沖春蘭、横田玉華
- 【搬出入部】 部長 永田龍石
委員 梶谷綾泉、門山玲花、神谷映水、柴山枝峯、塚原桃虹、村山螢泉、矢野春潮
- 【陳列部】 部長 山本晴城 副部長 永田龍石、渡邊祥華
委員 阿久津由美、安蒜欣青、内田子鴻、老川揺舟、大場映翠、岡村公裕、五戸光岳、柴山枝峯、鈴木曉昇、鈴木蓉春、関根史山、中野和博、林龍成、村越弘鷹
- 【図録部】 部長 青木錦舟 副部長 岩村恵雲
委員 大久恵華、恩田瑞貞、久米麗鳳、諏訪春蘭、高橋峰月、武翠泉、中村蘭香、村山螢泉
- 【東京部会】 部長 武富明子 副部長 黒田浩芳、山下翠風
委員 岩間桃香、久米麗鳳、関根春峰、平本一恵
- 【東北展】 顧問 田村政晴
実行委員長 松崎龍翠
事務局長 建部恭子
実行委員 小嶋カズ子、五戸光岳、末永香雅、鈴木葉光、芳賀祥祿、宮崎礼子、渡辺敦子、渡部美恵子、渡辺龍泉
- 【中部展】 顧問 村越龍川、風岡五城
実行委員長 村田白葉 副実行委員長 勝田晃拓、山本晴城、渡邊祥華
実行委員 赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡本杏華、刑部翠風、菊山武士、木村大澤、小泉玲洸、佐武照聲、田中龍瀨、村越弘鷹、和田玲砂
- 【関西展】 顧問 平方峰壽、今口鷺外
実行委員長 松井玲月 副実行委員長 正川子葉
実行委員 小野亭良、長尾佳風、中村雪鷺、久田方琥、西尾蘭畦、篠原秀朋、生田佳葉、竹内美翠、加藤竹黎、柳鵬翔、山田秀園、山田娃泉、山口了世
- 【瀬戸内展】 実行委員長 大庭清峰 副実行委員長 上村陽香
実行委員 大田桂水、石井思水、平岡雄峰、大段栄泉、松岡舟波、三宅秀紅、鈴木蒼、藤井峯子、圓田翠泉、田中春畝、藤井玉瑛、曾根小徑、田中吳峰、植木由樹子、美之口琴晴

第 41 期 産経国際書会運営委員

- 【総務部】 担当事務長代行 坂本香心 部長 浅香秀子 委員 戸叶幽翠、人見恵風、鈴木博子
- 【会報・広報部】 担当副理事長 高頭子翠 部長 小川艸岑
委員 影山瑤琴、早坂喜伊、横田玉華、渡邊麻衣子
- 【企画部】 担当副理事長 金丸鬼山 部長 岩村恵雲
委員 大久恵華、恩田瑞貞
- 【研修部】 担当副理事長 勝田晃拓 部長 永田龍石 委員 進藤栄峰、松岡篁月
- 【教育部(ジュニア育成)】 担当副理事長 松崎龍翠 部長 眞田朱燕 副部長 高野彩雲
委員 岡田崇花、鎌形美遊、小池雅游、今野美晃、笹山紅樹、鈴木葉光、長谷川明扇、星野葉柳
- 【渉外部】 担当副理事長 町山一祥 部長 鎌田悠紀子 部員 遠藤香葉
- 【会員増加企画(東京)】 担当事務長代行 坂本香心、渡邊麗
- 【会員増加企画(大阪)】 担当副理事長 松井玲月、正川子葉

2025産経ジュニア書道コンクール

高校生A部門の出品料は5,000円。軸装にして返却します。※返却料はご負担ください。

【開催要項】

会 期 2025年 8月14日(木)～8月21日(木)
 18日(月)は休館
 午前9時30分～午後5時30分
 (入場は午後5時まで)
 ※初日は午後1時から、最終日は午後1
 時まで(入場は午後12時30分まで)
 会 場 東京都美術館 2階第3・4展示室
 賞 文部科学大臣賞など特別賞、推薦、特選、
 秀作、佳作となります(中学生以下)。

贈賞式 2025年 8月16日(土)予定
 東京都美術館講堂にて
 審 査 員 2025年 5月に発表します。審査長は松崎
 龍翠、実行委員長は眞田朱燕。
 発 表 入賞者氏名は2025年 8月上旬の産経新聞
 紙上(予定)で発表します。
 募集期間 2025年 4月1日(火)～6月10日(火)必着
 搬入場所 〒134-0088 東京都江戸川区西葛西
 6-9-12西葛西トーセイビル4F
 (株)スタッフアルファコミュニケーション内
 「産経ジュニア書道コンクール」係

【出品要項】

応募点数 一人何点でも可 応募資格 幼年、小学生、中学生、高校生

出品規定

	幼 年	小学生	中学生	高校生
書 体	楷書	楷書	楷書または行書	自由
作品への名前 等の書き方	年齢と姓名 姓名どちらかでも可	学年と姓名 小1、2年は姓名どちらかでも可	学年と姓名 学年は中1、中2、中3と入れる	名前(姓不要)の下に 書または臨と墨書
大 小 寸	八つ切り(縦のみ) 半切4分の1 [たて68cm×よこ18cm]			小画仙全紙2分の1(縦のみ使用) [たて135cm×よこ35cm] 小画仙全紙2分の1(縦横自由) [68cm×70cm]
	半紙(縦のみ) [たて33cm×よこ24cm]			半紙(縦のみ)半切 よこ4分の1(縦横自由) [34cm×35cm]
出 品 票	漢字でフルネームを記入し必ずふりがなを明記し、作品の左下隅に貼付 高校生の場合、臨書は法帖名、創作は題名を備考欄に記入のこと			

	規定の漢字数	参考課題	
幼年	規定なし	くり	みどし
小1	規定なし	かんじ	すいとう
小2	規定なし	水たま	たのしみ
小3	漢字1字以上	なみ音	すんだ空
小4	漢字2字以上	夜空の星	大切な友
小5	漢字2字以上	書の文化	白い夏雲
小6	漢字3字以上	生徒代表	湖水の風
中学	漢字4字以上	万国博覧会	質実剛健
高校	制限なし(一字書から多字数)	臨書あるいは創作(書体自由)	
国際	規定なし		

※国際は外国人または国外在住の日本人

※参考課題は、A(八つ切り)部門、B(半紙)部門共通です。

出品料

	中学生以下	高校生	国際 (在日外国人も可)
A部門	1,200円(八つ切り)	5,000円(半切)	800円
B部門	800円(半紙)	800円(半紙など)	800円

※金額は1点(消費税込)。高校生A(半切)部門は
 軸装料含む。
 (出品料は下記口座に銀行振込でお願いします。
 団体出品の場合は一括で入金して下さい。)
 みずほ銀行 大手町営業部 普通2786314
 口座名:ジュニア書道コンクール

作 品 返却いたしません※特別賞各賞とジュニア賞、いきいき賞、高校生の奨励賞以上は返却します。
 但し、高校生A部門(軸装)は着払いにて返却します。不要の方は事務局までご連絡ください。

募集要項、出品票、一覧表は産経国際書会事務局 ☎03(3275)8902、またはsankeijr@sankei.co.jpまでお問
 合せください。一式資料をお送りいたします。

第 41 回 産経国際書展 新春展

◆会期 令和7年1月22日(水)～2月3日(月)
1月28日(火) 休館
午前10時～午後6時(最終日午後3時まで)

◆会場 国立新美術館 2階B・C・D展示室

◆入場 500円(大学生以下、65歳以上は無料)
※1月22日(水)、オープニングのテープカットを会場入り口付近にて10時半より予定しております。
※1月31日(金)午後4時から明治記念館にて贈賞式・祝賀会を行います。



今回は、代表展176点、新春展Ⅰ188点、大作4点、新春展Ⅱ466点、合計834点を展示します。大作の下見検討会は9月19日(木)、国立新美術館地下1階審査室で、高橋照弘、金丸鬼山、高頭子翠、村山白葉の4人の先生方により行われました。最終的に、鈴木蓉春常務理事(現代書)、梶谷綾泉専管理事(現代書)、柳鵬翔理事(漢字)、審査会員の佐藤小菊さん(現代書)の出品が決まりました。

新春展Ⅱの審査は12月6日(金)、国立新美術館地下1階の審査室で、風岡五城、高橋照弘、坂本香心、勝田晃拓、武富明子、建部恭子、松井玲月、青木錦舟、町山一祥の9人の先生方により466点の作品の審査が行われました。

受賞者は以下の通り

〈会友奨励賞〉

阿部典翠、安静圓成、家田陽水、江口鶴翠、尾作泰仙、加藤貫源、金坂翠香、後藤春麗、高原栄香、若宮舞奏

〈産経新聞社賞〉

押田喜代美、菊地華香、小寺のり、志波梧桐、蓼沼陽子、田中海月

〈奨励賞〉

安藤清美、稲葉陽萩、上垣ひとみ、沖本緑風、尾関真知子、折尾遥光、小泉竹華、後藤蒼葉、小柳末利、櫻井洋子、佐藤嘯月、真田久美、執行みや子、篠田喜代子、澁谷壽、鈴木千翠、須田由利子、瀬谷秀蘭、隴西静美、全和美、寺島戀、豊島優子、中曾根緑、西村航輝、野村任子、星野孝子、松村さとみ、三上美智子、蓑霞葉、山下未来瑠、渡辺貴子、和知蒼龍

受賞者が
決まりました!



うちの社中を紹介します!

書成会

書成会副会長
産経国際書会理事 早坂喜伊

平成元年、旧誠墨会の役員有志が集まり、新しい研究団体として書成会が結成されました。そして今年36周年を迎えました。初代会長は本多道子先生、2代目は田村政晴先生、現在3代目は建部恭子先生が就かれています。会員は兵庫から秋田までと広域にわたっていますが、東北地区の会員が多いです。

■競書誌「書成」

一般部会員は毎月発行の「書成」誌で、漢字・仮名の臨書をはじめ、一字書、条幅作などを学書し、日々研鑽を積んでいます。毎月巻頭に掲載の名誉会長・田村政晴先生の書話は、私たちにいろいろな話題を提供して下さい、とても素晴らしい内容で、他会の方からもお褒めのことばをいただき、皆さんが楽しみにしている1ページです。

■展覧会について

・会最大の行事である「書成会書展」は、毎年2月にセントラルミュージアム銀座(東京都中央区)で開催しています。昨年2月には35回記念展を開催しました。

・「産経国際書展」には多くの会員が出品しており、41回展では伊達政宗賞、審査会員優秀賞、産経準大賞などを受賞。毎年多数の受賞者を輩出しています。

・この2展に加えて、地方展・それぞれ各社中展と、盛りだくさんの活動をしています。

■錬成会及び研究会の開催

毎年、書成展や産経展に向けて、東北地区、関東地区に分かれて錬成会を行っていますし、研究会については、コロナ禍で中断していた1泊2日の役員の研究会を昨年から再開し、昨年は約50名が参加しました。また、社中や地域ごとの研究会も度々行われ、研究団体として会員の実力アップに力を入れています。

■教育部(小・中学部)

毎月課題の毛筆作、一字書、硬筆作の応募があり、お正月の誌上書初展には多くの力作が寄せられます。また、「産経ジュニア書道コンクール」にも参加しています。これからも未来を担う子供達の育成に努めていきます。

少子高齢化はどの社中も同様と思いますが、今後の人口減少時代をどのように乗り切れるかが最大の課題となるでしょう。ともあれ、書の魅力そして楽しさをより多くの方々に伝えながら、書の更なる普及に少しでも貢献できるよう、会員一同力を合わせて努めていきたいと思っております。



賑わう「第35回記念書成会書展」の会場



第35回記念展を成功裡に終えた書成会幹部と産経の来賓



第41回産経国際書展の祝賀会で



36回展に向けて修練を積む東北地区錬成会

秋 期 研 修 会

産経国際書会 2024秋期研修会
会期 10月12日(土)～10月13日(日)
会場 東京・国立新美術館 3階講堂

今度は、君が光るとき！ 実り多き秋の研修会

研修部担当副理事長 勝田晃拓

短い間だったが、来てよかった…。そんな声が多く聞かれた2年ぶりの研修会。今回は舞台を新国立美術館に移し、漢字圏から一歩出て、仮名世界、更に漢字仮名混じり調和体にも踏み込んだ。

募集期間が短いにも拘らず、延べ190名近くの参加者。4名の講師陣による、簡潔明瞭で時折ユーモアを交えた講義では、目から鱗の話に傾く聴講者達の姿が印象的。続く示範揮毫は自由自在に舞う筆の妙技を目の当たりにし、感動のため息と共に拍手喝采が会場にこだまする。

また懇切丁寧な机間アドバイス、各コーナーでの添削においても、途切れぬ行列、その食いつける眼差しは正に受講生の心を虜にした瞬間であったろう。2日目の最終質問では、今更聞けない情報、サプライズプレゼントもあり、大変な盛り上がりを見せた。

全てを教えることは難しい。それを各人が理解し栄養素とするかは、以後の努力工夫の熱量に掛かっているのかもしれない。勿論、研修それ自体が有益なのは言うまでもないが、師匠以外の先生からの貴重なご教授や、普段会えない書友同志の親睦も、ほんの束の間ではあるが、

貴重な機会になった違いない。

参加者らは、光る君へ^{*1} 少しでも近づこうと其々の熱い思いを胸に、足取も軽く会場を後にした。

めぐりあひて 見しやそれとも わかぬまに
仮名書く末に 余は尽きるかな (江戸紫式部)^{*2}

*1 NHK大河ドラマ

*2 参考 (めぐりあひて 見しやそれとも わかぬまに
雲かくれにし 夜半の月かな)…(紫式部：百人一首)

<研修部長&講師コメント>

■永田龍石常務理事(研修部部长)

秋の研修会は仮名と調和体に分けて催されました。今回の会場は日本を代表する美術館で千代田線乃木坂駅より直通と申し分の無い場所でした。遠くは大阪から参加された方もいるなど、熱心な受講者190人がずらり。10月にしては異常な暑さが続いていましたが、会場は酷暑に負けない熱気で溢れていました。講師の添削を真剣に受けている皆さんの顔が印象的で、とても輝いていました。研修会の意義を感じました。



熱気あふれる会場



巨大スクリーンで揮毫のコツを確認

■青木錦舟副理事長(講師)

秋晴れの気持ちの良い日、早い時間から受講者の方々がいらして、「楽しみにしてます」と声をかけて下さり、私のドキドキの1日が始まりました。講堂いっぱいの皆様は、一心に講義に耳を傾け、揮毫の実技では私にカメラを向け、皆さんの作品の添削コーナーになると、あっという間に私の前に長い列ができ、何人の方が解説する様子を覗き込むという熱心さでした。充実した濃い時間となり、心より感謝申し上げます。

■伊藤春魁常務理事(講師)

このたび私は「関戸本古今集の臨書から大字仮名への展開」の講義をさせていただきました。私が体験して感じたことを説明し、実作もしました。少しでも「かな」が身近なものとなり、「書いてみたいな」と思っただけならば幸いに存じます。参加者の皆様、関戸本古今集を再勉強する機会を与えてくださった研修部の先生方に感謝申し上げます。

■鎌田悠紀子常務理事(講師)

私は調和体を担当しました。書評論家・田宮文平先生が亡くなられる直前に私に託された本より抜粋し、私が伝えたかったことを紹介します。「漢詩漢文の社会的基盤が急速に失われた時代、いつまでもそれだけを書の素材としていれば社会から遊離したものになってしまう。相手の心に伝わる読める書が重要なのです」。研修では、①調和体の歴史(平安時代～現代)②書家の書を映像で分析③調和体の練習方法を解説しました。2日間とも会場の熱気に心打たれました。

■谷蒼涯専管理事(講師)

この度、初めて仮名講習会を担当させていただきました。ご参加された皆様は楽しめましたでしょうか？少しでもお役に立ちましたら幸いです。個人的には即興での和歌一首を創作展開として、3構成で壇上で一発書きが無難にできて楽しめました。また、個人添削の場面でも、参加者の皆様の真摯に向き合う熱心さに接し、今後の産経はますます明るいと感じました。



字の配置法などを解説する
青木錦舟講師



手本を示す伊藤春魁講師



熱心に説明する鎌田悠紀子講師(左)



質問に答える谷蒼涯講師(左)

書展 トピックス

第10回日本書蒼院展

谷蒼涯

●会期 8月15日(木)～18日(日) ●会場 東京・浅草公会堂展示ホール

この度、日本書蒼院の20周年を記念して第10回日本書蒼院展を開催いたしました。創設時より、伝統的な書を学びながらも探求心を持って、現代的な書への発展をモットーに歩んで参りました。今回は仮名、漢字、調和体に実用ペン習字作品まで日ごろの修練を積んだ作品62点を展示いたしました。これを節目にますます会員一同精進して参りたいと思います。暑さの中、ご来臨いただきました皆様に心より御礼申し上げます。



groupf 2024展 vol.7 東京～6人の共通点は「書」

佐那

●会期 9月4日(木)～9月8日(日) ●会場 東京・目黒区美術館 区民ギャラリー

女流書家6人がそれぞれ自由な表現を求めて切磋琢磨するグループ展です。メンバーは書会などの書道仲間、井上空咲さん、植木由樹子さん、三好尚美さん、一甘さん、斎藤知里さん。前衛書道の鑑賞のポイントや創作の意図を気軽にその場で来場者に解説。会場に選んだ目黒が「さんま祭り」で有名なことから、サンマを色彩豊かに描いて壁に装飾するワークショップも開催しました。書道ファンから一般の来場者まで、知的好奇心をくすぐる人気企画となりました。



第10回記念方琥書院書画展

久田方琥

●会期 10月3日(木)～8日(火) ●会場 大阪・茨木市立ギャラリー

今回で10回目の方琥書院書画展を迎えることができました。茨木市はこの10年の間、地震、台風と大きな災害に見舞われ、さらにコロナ禍と様々な出来事がありました。しかし、休むことなく続けられたのは、たくさんの方々のご支援やご協力があったからこそだと感謝しております。今回は例年になく、たくさんの方々にお越しいただき、10年目にふさわしい賑わいとなりました。一人一人が思いを込めて表現した作品に貴重なお声がけもいただき、第11回展に向けてより一層の努力を重ね、次回社中展も成功させたいと思っております。



第1回明扇書藝會展覧会

長谷川明扇

●会期 10月11日(金)～14日(月) ●会場 長野県立美術館

隔年開催しておりました発表会も20年を終え、新たに正式な展覧会と題し、格調を高めた作品展を開催致しました。小学生から80代まで150作品。地元の長野県立美術館(東山魁夷館併設)にて展示し、スポーツの日を含む10月12日～14日の3連休に晴天も重なり、同時開催の「若冲展」のお客さんや、隣接の善光寺の観光客も呼び込み、展覧会は盛況に幕を閉じました。



創立50周年記念 宏道書会代表展

木村大澤

●会期 10月25日(金)～29日(火) ●会場 東京・有楽町朝日ギャラリー

東京展は初で、大作23点、小品22点、計45点の出品です。風岡五城・宏道書会名誉会長、山本晴城・同会長ほか、会の理事以上の力作で構成されています。小品はアートサロンGAROの額で統一。名古屋からも多くの会員が詰めかけました。10月27日には祝賀会が会場近くの中華料理店「過門香」で開かれ、産経新聞社や書会役員からも多くのご列席を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。



第70回記念あしで會選抜書作展

今口鷺外

●会期 10月25日(金)～27日(日) ●会場 兵庫・尼崎市総合文化センター美術ホール5階



先師以来の第70回目を迎え、改めて過ぎし時の流れを思わずにはいられない。此度はこの機会にと今まで書きためてきた自身の写経や仮名臨書などを卷子仕立てにした愚作をズラリと並べさせてもらったりもした。“基本を大切にしたい”を標榜する我が社中の姿勢の一端ではある。そんな修業と併せて現代性を纏った作品づくりを皆で愉しむというスタイルなのである。併せて社中「和」の歴史を経てきた証の恒例展ともいえるのだ。お運び下さった皆様にこの場をかりて厚く御礼申し上げます。

書・墨・アート Vol.15 渡邊麗・渡邊麻衣子展

渡邊麗

●会期 11月6日(水)～12月1日(日) ●会場 東京・杉並芸術会館、座・高円寺ギャラリー

「書・墨・アート 渡邊麗展」第15回記念展として、今回は「渡邊麗・渡邊麻衣子展」を開催。サブタイトル「年輪を刻む」。横3メートルの大作一字書ほか、少字数書、詩文書など、渡邊麗6点、渡邊麻衣子4点を発表。今展に先立ち、10月26日に座・高円寺劇場前広場で「書・墨・アート・デモンストレーション」を実施。観客の参加揮毫もあり、賑やかに現代書の魅力を展開しました。



黄龍の書 日本心を京都から世界へ

諸留大穹

●会期 11月9日(土)～10日(日) ●会場 京都・大徳寺黄梅院

3回目となった今回は、会派の違う2人の先生を混じえ5人で開催。書アートに漢字正統派の展覧は、楽しくも重みのある書世界が寺院内に広がった。海外からの拝観者も大勢見えて、大層な賑わいとなった。60年に1度の甲辰の年「黄龍の書」も大きく成長を遂げた。また、今展に先がけて銀座鳩居堂で開催した諸留大穹「書アートの世界『文字の奥から響く眼』」展も個展10回目となった。今回は1作1作に時間をかけて制作したものが多く、壁面も変革し、余白を多く取り、ゆったりと鑑賞して頂いた。暑さの中を来場された皆様にはありがたく感謝致しております。更にお力添えを頂いた先生には厚く御礼申し上げます。



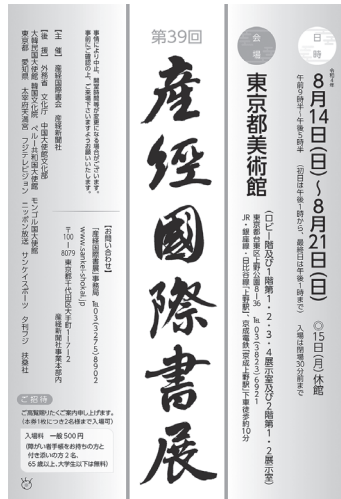
第42回産経国際書展 題字の募集

産経新聞社と産経国際書会は、昨年に続き今年1年間、第42回展のポスターや招待はがきなどに使用する題字「産経国際書展」を募集します。

- 提出物** 半切4分の1(68×18cm)の紙に縦に「産経国際書展」と墨文字で揮毫
- 募集期間** 2025年1月6日～2月28日
- 応募資格** 会友以上の産経国際書会会員なら誰でも可
- 応募料** 無料、何点でも応募可
- 応募方法** 作品と連絡先(住所、氏名、電話、FAX、メールなど)を明記したものを同封して下記応募先までお送りください。
- 選考** 産経新聞社事業本部長、産経国際書会理事長、ポスターデザイナーほか
- 採用謝礼** 5万円
- 使用期間** 1年間(2025年4月～2026年3月、第42回本展、地方展、新春展)予定
- 使用権など** 産経新聞社・産経国際書会に帰属。また、デザイン上、採用した文字を横書きにしたり、拡大、縮小、彩色、補色する場合があります。
- 結果通知** 題字が採用された方のみご連絡(2025年3月中旬以降)
- 応募先** 〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2 産経国際書会
- 問合せ** 同事務局 TEL03(3275)8902 / FAX03(3275)8974
e-mail: shokai@sankei.co.jp



第41回展題字 眞々田壽扇



第39回展題字 戸叶幽翠



第38回展題字 沈強

令和6年度理事会開かれる

令和6年度理事会は12月5日(木)、東京都千代田区の手町サンケイプラザで開催されました。出席者は53人でした。

はじめに産経新聞社の飯塚浩彦取締役会長から「41回展と巡回展が充実した素晴らしいものとなりました」と感謝の言葉がありました。特に呉昌碩生誕180年や現代モンゴル書壇を紹介する特別展を挙げ、「国際書会という名前にふさわしい企画だった自負しています」と述べました。

その後、高橋照弘理事長が議長を務め、議事を進行しました。事務局からは、41回展の期間中に開催したイベント「一いっしょう先生の前衛書講座―読まないsho 読めないsho、」(講師：町山一祥副理事長)が盛況を博したこと、ジュニア展の出品点数が1万3000点を超え、本展、ジュニア展ともに多くの入場者をつかめたこと、かなの臨書や調和体に親しむ10月の秋季研修会も大変好評だったことなどが報告されました。

また、6月14日(土)～6月19日(木)、万博会場内ギャラリーEAST(大阪市此花区夢洲)で開催される産経国際書展「大阪・関西万博展」には、163人が出品を予定しています。

そして、新入会(会友)81人、昇格者107人が示されるとともに、来年度の本展審査員と本展実行委員会(案)、さらに運営委員会(案)についても発表しました。今後はこれをもとに運営を進めてまいります。

(事務局)

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和7年1月～4月〉

展覧会名	会期	会場	団体	代表名
第41回雅涎会書展	1月6日(月)～1月11日(土)	東京・有楽町朝日ギャラリー	雅涎会	宮負丁香
第43回埼玉県中央書道連盟展覧会	1月17日(金)～1月22日(水)	埼玉・上尾市民ギャラリー	埼玉県中央書道人連盟	高橋紫芳
尚友会2025書展	1月23日(木)～1月26日(日)	静岡・沼津市の静銀ギャラリー 四季	尚友会	小杉修史
泉の会第23回新春展	1月28日(火)～2月2日(日)	千葉・四街道市民ギャラリー	泉の会	梶谷綾泉
第88回龍峽書道展	2月5日(水)～2月11日(火)	東京・東京都美術館	龍峽書道会	林 龍成
第43回全国公募・学生部併催 煌心展	2月13日(木)～2月18日(火) 17日(月)休館	東京・東京都美術館	煌心書道会	松崎龍翠
第36回書成会書展	2月20日(木)～2月23日(日)	東京・セントラルミュージアム銀座	書成会	建部恭子
第40回記念景雲社「絆」書道展	2月24日(月)～3月2日(日)	静岡・クリエート浜松 ギャラリー31	景雲社	勝田晃拓
2025菽水書人社展	3月6日(木)～3月9日(日)	東京・銀座かねまつホール	菽水書人社	林 清方
第41回書のコアメントールぼくりん	3月11日(火)～3月16日(日)	東京・銀座鳩居堂画廊3F	墨林書道院	遠藤乾翠
第53回八戸臨泉会書展、 第76回八戸臨泉会学生書道展	3月28日(金)～3月30日(日)	青森・八戸市美術館	臨泉会	原田圭泉
2025年誠心社現代書展 國井誠海一門創立79周年	4月18日(金)～4月24日(木) 21日(月)休館	東京・東京都美術館	誠心社	渡邊 麗

編集後記

新たな年を迎え、皆様はどのようにお過ごしでしょうか。今年は「巳年」。蛇は古くから信仰の対称とされており、縁起が良く、蛇が現れると幸運がすぐそこまで来ていると伝えられています。「蜿蜿長蛇」「画蛇添足」「牛蛇添神」「虎頭蛇神」「蛇心仏口」「斗折蛇行」「常山蛇勢」「杯中蛇影」等、蛇に纏わる様々な言葉があり、今年も穏やかで幸せな年でありますようお祈り申し上げます。

去年は暑い暑い長い夏でしたが、本展の特別企画「呉昌碩展」「モンゴル書壇代表作家展」は意義ある催しとなったことと思います。

そして西へ東へと地方展が繰り広げられ、実行委員の先生方、本当にお疲れ様でございました。

これから新春展の開催、また6月の「大阪・関西万博」記念展と忙しくなりますが、国際博覧会として海外の人々の目に触れられる機会を大切に、輝かしい書展となりますようお願いしております。

未来は原点にある、産経国際書会発足当時を改めて振り返り、これからの産経国際書会の発展に繋げて行かなければならないとの思いを深めました。今年もいろいろな思いを皆様と共有できれば幸いです。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(小川艸岑)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、横田玉華、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は高橋照弘理事長

編集・発行 令和7年1月号
〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2
産経新聞社事業本部内
産経国際書会事務局
TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974
email : shokai@sankei.co.jp
<https://sankei-shokai.jp/>
<https://www.facebook.com/sankeishokai>



産経国際書会
ホームページ

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。